

清須学推進事業について

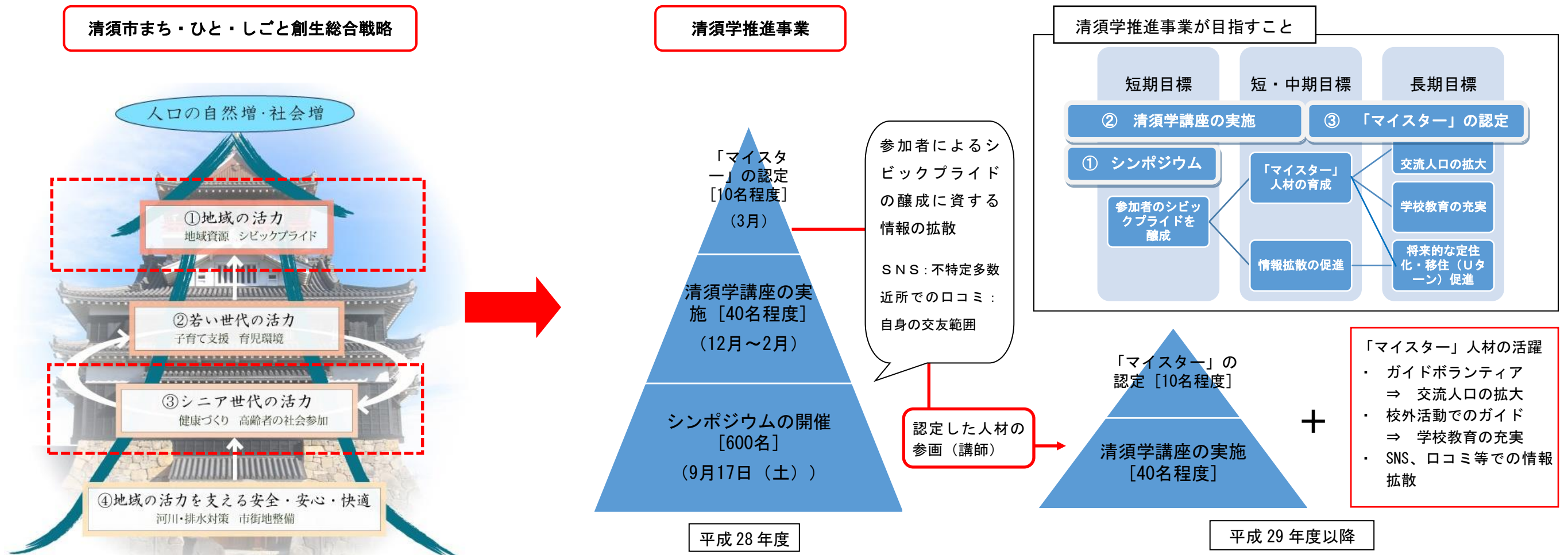
1 趣旨及び概要

(1) 趣旨

- 本市のまち・ひと・しごと創生に向けて、まずは、本市が有する地域資源を最大限に活用するとともに、シビックプライド（地域に誇りと愛着を持ち、当事者として考え行動する住民意識）の醸成と、その牽引役となる人材の育成や活躍を促進することにより、地域全体の活力を高め、交流人口の拡大、ひいては、定住人口の増加を目指す。
- 清須市の歴史や文化を体系的に理解することを通じて、シビックプライドの醸成を図るとともに、その牽引役として、観光や教育等の分野で、幅広く地域で活躍できる人材を育成するため、「清須学講座」を開設する。
- 清須学講座修了者の自発的・継続的な地域の活力向上と魅力発信のための活動を促すため、「清須学歴史マイスター（仮称）」として認定する仕組みを設けます。

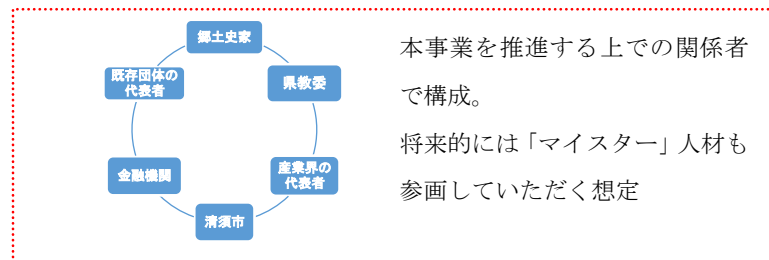
（出典：「清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略」）

(2) 事業全体のイメージ



清須学推進会議の役割

- ・ 「清須学講座」の実施方針に関する意見聴取・合意形成
- ・ 「マイスター」人材の活用方針に関する意見聴取・合意形成
- ・ 「マイスター」の認定機関



清須学推進会議構成員

清須学推進会議構成員		(敬称略・順不同)		
愛知県教育委員会文化財保護室 主査	郷土史家	原田 幹	会長	
清須市ガイドボランティア 会長	同会 副会長	加藤 富久		
同会 会員	西枇杷島町山車保存会・西枇杷島町まつり振興会 会長	横井 敏雄		
麒麟ビール株式会社名古屋工場 総務・広報担当	中日信用金庫 理事長	加藤 暉夫		
清須市商工会 事務局長	清須市観光協会 事務局長 (清須市産業課長)	田中 孝則		
		箕浦 信夫		
		山本 武司		
		山田 功		
		奥田 雅朗		
		石田 隆		
				副会長

## 2 講座構成

### (1) 概要 (案)

講座開催にあたっての基本的な要件は次のとおり。

受講者ターゲット	本市の歴史的な地域資源に関心のある方や、市立小中学校、県立新川高校・五条高校及び愛知医療学院短期大学の教職員へも受講を勧奨
開催方法	座学、フィールドワーク、ワークショップを組み合わせ、適切な講師を選定の上、全6講座程度開催する

### (2) 手法

講座を実施するにあたり、その手法は3通りが想定される。講座は各手法を組み合わせた上で、6講座程度開催することとする。

方法項目	概要	知識習得	シビックプライドの醸成	受講者の負担感
① 座学	講師が教室でテキストの解説を行う形式で実施する。幅広い知識を習得するのに適した方法	◎	○	◎
② フィールドワーク	地域資源の現場に出向き、案内役（ガイドボランティア）の説明を聞きながら見聞を深める内容が想定される	○	○	○
③ ワークショップ	3～6人程度のグループに分かれて、何らかの成果物（散策マップ、紙芝居等）を作り上げることを目的として、地域資源に関する検証・作業等を行う内容が想定される（最後は成果物の発表会）	○	◎	△

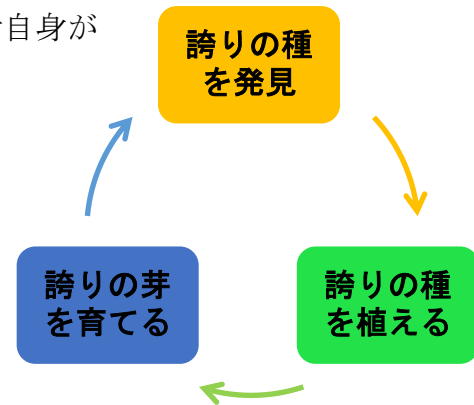
(◎：効果が大きい、負担感が少ない / ○：効果（負担感）が普通 / △：効果が小さい、負担感が大きい) ※「受講者の負担感」とは経済的なものではなく、心理的なものをいう。

### (3) 基本的な考え方

#### ① 講座の目的

シビックプライドの醸成と、その牽引役として、観光や教育等の分野で、幅広く地域で活躍できる人材を育成すること。

受講者自身が



#### 誇りの種を発見するためのヒント

まちの良さを見つけるには、まず「まちを知ること」が大切（新しい目で見てみる）

- ・ 今までにある地域資源に新しい光を当てる（活用の観点）
- ・ 新しい手法を注入して、ありふれたものを資産として活かす

※ 講座は、左記のサイクルを作り出す“きっかけ”づくりの場となるよう構築するが、この種の取り組みに即効性のある手法はない。

#### ② コンセプト

- まちの良さを知るためには、まず「まちを知ること」が大切。

⇒ まちの魅力を再発見することにつながるような地域資源のポイントを決めておく。

#### 【ポイントを決めておく理由】

- ・ 効果の最大化を図るため
- ・ 事業の効率化を図るため
- ・ 効果測定を簡易に行うため
- ・ 事業シナリオの道筋をつけやすくするため

- 第一目的はシビックプライドの醸成で、地域資源に関する膨大な知識の提供ではない。

⇒ このまちを好きになるきっかけとなるような講座。

(4) 構成 (案)

① 案1「座学中心の構成」

組み合わせ	「座学」+「フィールドワーク」						
ねらい	歴史的な地域資源に関する座学を中心に構成して、「マイスター」の育成を意識して、検定試験までのスムーズな流れをつくること						
課題	知識を発信するだけでは、その人止まりで消費される情報で終わってしまうため、シビックプライドの醸成につながらない恐れがある						
構成案 (たたき台)	<p>ある程度網羅的な内容の「座学」とポイントを絞った「フィールドワーク」で構成 [土日で2時間程度の開催を想定]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>座学 [ 5 講座 ] 第1講は、複数の講師で交代して担当。第2講以降は1コマ1講師を想定</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td>第1講</td> <td>美</td> <td>文化財や景観における美を扱う 朝日遺跡の赤彩土器 (パレス・スタイル土器) や清須城の金箔瓦といった全国的にも珍しい出土品、西枇杷島まつりの絢爛豪華な山車、今は失われたが史料に見られる川辺の美観等、美にまつわる地域像を確立</td> </tr> <tr> <td>第2講   4 ・ 6講</td> <td>都市</td> <td>各時代において、政治・経済や軍事上の拠点として果たした都市機能に注目し、地域全体の自然条件と時代環境がどう符合して、この地に都市が発達したかをテーマごとに検証。朝日遺跡、清須城 (城下町)、美濃路において、それぞれが果たした意義を考えることで、現在のような名古屋市の「周辺」という地域像とは異なる来歴を確認 また、清須越を通じた名古屋の街づくりへの影響 (地名) 等、本市が名古屋市のルーツに相当するという関係性を明らかにする。また、今日の清須がそうした特性をどう引き受けているのかについても確認 【第2講】朝日遺跡：東海地方最大の環濠集落であった朝日遺跡について 【第3講】清須城：清須城・城下町及び清須越し以降の清洲宿・五条川流域について 【第4講】美濃路：枇杷島市場、尾張西枇杷島まつり、庄内川、新川開削等について 【第6講】現 代：企業立地に適した地域である理由が、川・交通の要所といった前近代の都市基盤と軌を一にしている点を跡付ける内容を想定 (キリンビール(株)様を中心に)</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>フィールドワーク [ 1 講座 ] 講師はガイドボランティアの方に依頼することを想定。清須城界限、朝日遺跡、美濃路を軸に選定 [ 第5講あたりを想定 ]</li> </ul>	第1講	美	文化財や景観における美を扱う 朝日遺跡の赤彩土器 (パレス・スタイル土器) や清須城の金箔瓦といった全国的にも珍しい出土品、西枇杷島まつりの絢爛豪華な山車、今は失われたが史料に見られる川辺の美観等、美にまつわる地域像を確立	第2講   4 ・ 6講	都市	各時代において、政治・経済や軍事上の拠点として果たした都市機能に注目し、地域全体の自然条件と時代環境がどう符合して、この地に都市が発達したかをテーマごとに検証。朝日遺跡、清須城 (城下町)、美濃路において、それぞれが果たした意義を考えることで、現在のような名古屋市の「周辺」という地域像とは異なる来歴を確認 また、清須越を通じた名古屋の街づくりへの影響 (地名) 等、本市が名古屋市のルーツに相当するという関係性を明らかにする。また、今日の清須がそうした特性をどう引き受けているのかについても確認 【第2講】朝日遺跡：東海地方最大の環濠集落であった朝日遺跡について 【第3講】清須城：清須城・城下町及び清須越し以降の清洲宿・五条川流域について 【第4講】美濃路：枇杷島市場、尾張西枇杷島まつり、庄内川、新川開削等について 【第6講】現 代：企業立地に適した地域である理由が、川・交通の要所といった前近代の都市基盤と軌を一にしている点を跡付ける内容を想定 (キリンビール(株)様を中心に)
第1講	美	文化財や景観における美を扱う 朝日遺跡の赤彩土器 (パレス・スタイル土器) や清須城の金箔瓦といった全国的にも珍しい出土品、西枇杷島まつりの絢爛豪華な山車、今は失われたが史料に見られる川辺の美観等、美にまつわる地域像を確立					
第2講   4 ・ 6講	都市	各時代において、政治・経済や軍事上の拠点として果たした都市機能に注目し、地域全体の自然条件と時代環境がどう符合して、この地に都市が発達したかをテーマごとに検証。朝日遺跡、清須城 (城下町)、美濃路において、それぞれが果たした意義を考えることで、現在のような名古屋市の「周辺」という地域像とは異なる来歴を確認 また、清須越を通じた名古屋の街づくりへの影響 (地名) 等、本市が名古屋市のルーツに相当するという関係性を明らかにする。また、今日の清須がそうした特性をどう引き受けているのかについても確認 【第2講】朝日遺跡：東海地方最大の環濠集落であった朝日遺跡について 【第3講】清須城：清須城・城下町及び清須越し以降の清洲宿・五条川流域について 【第4講】美濃路：枇杷島市場、尾張西枇杷島まつり、庄内川、新川開削等について 【第6講】現 代：企業立地に適した地域である理由が、川・交通の要所といった前近代の都市基盤と軌を一にしている点を跡付ける内容を想定 (キリンビール(株)様を中心に)					

② 案2「ワークショップ中心の構成」

組み合わせ	「座学」+「フィールドワーク」+「ワークショップ」														
ねらい	成果物 (紙芝居、マップ) の作成を通して、シビックプライドを可視化することで、効果的にシビックプライドを醸成。成果物は観光や教育の現場で活用														
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>シビックプライドの醸成には適した手法だが、受講者にとってハードルが高いと感じさせる恐れがある</li> <li>座学やフィールドワークは、成果物作成に向けて必要な示唆を与えるものという位置づけになり、検定試験までの勉強の流れは受講者任せになってしまう</li> </ul>														
構成案 (たたき台)	<p>受講者の問題意識から出発して、成果物 (散策マップ・紙芝居) を作成する [土日で2時間程度の開催を想定]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>座学 [ 2 講座 ] 講義は複数の講師で交代して担当</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td>第1講</td> <td>美</td> <td>案1に同じ</td> </tr> <tr> <td>第2講</td> <td>都市</td> <td>案1に同じ</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>フィールドワーク [ 1 講座 ] 清洲城界限、朝日遺跡及び美濃路の3コースから選択できるようにする</li> <li>ワークショップ [ 3 講座 ] (コーディネーターの手配が必要) 少人数グループで、「わたしのお薦め“清須遺産”(仮称)」を発表</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>第1講：講座ガイダンス [15分程度]・座学 (「美」) [70分] 第2講：座学 (都市) [120分] 第3講：ワークショップ (テーマ設定・グループ分・下調べ) [120分] 第4講：フィールドワーク (希望コース) [60分] 第5講：ワークショップ (作業) [120分] 第6講：ワークショップ (発表) [90分]</p> </div> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ワークショップの成果物 (コンテンツ化) としては、「散策マップ」「紙芝居」を想定。 ※ コンテンツ化とは、物語性を持った「ひとまとまりの情報」をいう 【コンテンツ化のポイント】</p> <table border="1"> <tr> <td>共感性</td> <td>創造性を刺激し、共感性を誘発させる</td> </tr> <tr> <td>安心感</td> <td>確かな事実によって規定することで、不確実性を払拭する</td> </tr> <tr> <td>気づかせ効果</td> <td>「へえ」と思わせる事実を織り込む</td> </tr> <tr> <td>拡張性</td> <td>様々なコンテンツに拡張させ、接触体験を拡大させる</td> </tr> </table> </div> </div> <div style="margin-top: 10px;"> </div>	第1講	美	案1に同じ	第2講	都市	案1に同じ	共感性	創造性を刺激し、共感性を誘発させる	安心感	確かな事実によって規定することで、不確実性を払拭する	気づかせ効果	「へえ」と思わせる事実を織り込む	拡張性	様々なコンテンツに拡張させ、接触体験を拡大させる
第1講	美	案1に同じ													
第2講	都市	案1に同じ													
共感性	創造性を刺激し、共感性を誘発させる														
安心感	確かな事実によって規定することで、不確実性を払拭する														
気づかせ効果	「へえ」と思わせる事実を織り込む														
拡張性	様々なコンテンツに拡張させ、接触体験を拡大させる														



### 3 テキスト構成

#### (1) 基本的な考え方

- テキストの作製にあたっては、『清須市歴史散策 美濃路あるき』（清須市教育委員会、平成 21 年度 3 月）を底本としつつ、加筆修正及び再編集を行うこととする。
- 「美」と「都市」という観点から、この地に暮らした人々の営みについて光を当てる。

#### 【問題意識】（なぜ「美」と「都市」という観点を持ち込むのか）

- ① 「かつては栄えた土地だが、今は何も残っていない」という漠然とした共通認識（郷土史の過小評価）
- ② ①の共通認識には、「かつては栄えた土地」に、そこでの人々の営み（高い技術と豊かな精神性）によって生み出される洗練された成果物があることが見落とされている
- ③ 訪れてみたくなる（実物を見てみたくなる）ような情報の切り出し方で、従来の情報を再編する

観点	概要 [再掲]	観点の趣旨及び構成上のポイント															
美	文化財や景観における美を扱う 朝日遺跡の赤彩土器（パレス・スタイル土器）や清須城の金箔瓦といった全国的にも珍しい出土品、西枇杷島まつりの絢爛豪華な山車、今は失われたが史料に見られる川辺の美観等、美にまつわる地域像を確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 冒頭で、この地に花開いた美の回廊を案内し、郷土史理解のポイントを押さえる（関心を持つための“フック”を作るイメージ）</li> <li>・ 「朝日遺跡」「清須城」「美濃路」等から各 3 点程度を「美」の対象として取り上げ、それらの鑑賞のポイントに記載（詳細な歴史的経緯等は後段の「都市」編にゆずり、ここでは対象を鑑賞するのに必要な観点を説明するに留める）</li> </ul> <p><b>[ 鑑賞のポイントを示す ]</b></p> <p>学問的客観性から遊離しない範囲で、対象を上手に誉める（単に客観的事実の解説に留まらず、対象を誉めるために客観的事実を構成）</p> <p>「誉めたい要素」を抽出 → 「誉めたい要素」を説明するために必要な客観的事実を収集 → 「誉めたい要素」と「客観的事実」を組み合わせ、読み手の興味を引く情報として文章化</p> <p>（例）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地域資源（大分類）</th> <th>「美」の対象（小分類）</th> <th>鑑賞のポイント[例文]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>朝日遺跡</td> <td>赤彩土器</td> <td>「古代ギリシャの風格」 古代ギリシャで使われていたと説明しても通じる風格である。事実、パレス・スタイル土器という別名は、その特徴がギリシャのクレタ島クノッソス宮殿跡出土の宮廷式になぞらえてつけられた。</td> </tr> <tr> <td>清須城</td> <td>金箔瓦</td> <td>「名城の証」 全国に城と名のつく史跡は無数にあるが、●●城、…、…、そして清須城にだけ該当する共通項がある。意外なことだが、城郭史上、金箔瓦を葺いたお城は、これが全てなのである</td> </tr> </tbody> </table> <p>「美」の対象の例</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>朝日遺跡</td> <td>赤彩土器、骨角牙製装身具、勾玉…</td> </tr> <tr> <td>清須城・五条川</td> <td>金箔瓦、清洲花火…</td> </tr> <tr> <td>美濃路・庄内川</td> <td>山車の装飾、町屋建築、庄内川花見…</td> </tr> </tbody> </table>	地域資源（大分類）	「美」の対象（小分類）	鑑賞のポイント[例文]	朝日遺跡	赤彩土器	「古代ギリシャの風格」 古代ギリシャで使われていたと説明しても通じる風格である。事実、パレス・スタイル土器という別名は、その特徴がギリシャのクレタ島クノッソス宮殿跡出土の宮廷式になぞらえてつけられた。	清須城	金箔瓦	「名城の証」 全国に城と名のつく史跡は無数にあるが、●●城、…、…、そして清須城にだけ該当する共通項がある。意外なことだが、城郭史上、金箔瓦を葺いたお城は、これが全てなのである	朝日遺跡	赤彩土器、骨角牙製装身具、勾玉…	清須城・五条川	金箔瓦、清洲花火…	美濃路・庄内川	山車の装飾、町屋建築、庄内川花見…
地域資源（大分類）	「美」の対象（小分類）	鑑賞のポイント[例文]															
朝日遺跡	赤彩土器	「古代ギリシャの風格」 古代ギリシャで使われていたと説明しても通じる風格である。事実、パレス・スタイル土器という別名は、その特徴がギリシャのクレタ島クノッソス宮殿跡出土の宮廷式になぞらえてつけられた。															
清須城	金箔瓦	「名城の証」 全国に城と名のつく史跡は無数にあるが、●●城、…、…、そして清須城にだけ該当する共通項がある。意外なことだが、城郭史上、金箔瓦を葺いたお城は、これが全てなのである															
朝日遺跡	赤彩土器、骨角牙製装身具、勾玉…																
清須城・五条川	金箔瓦、清洲花火…																
美濃路・庄内川	山車の装飾、町屋建築、庄内川花見…																
都市	各時代において、政治・経済や軍事上の拠点として果たした都市機能に注目し、この地域の地形と時代環境がどう符合して、この地に都市が発達したかをテーマごとに検証 朝日遺跡、清須城（城下町）、美濃路において、それぞれが果たした意義を考えることで、現在のような名古屋市の「周辺」という地域像とは異なる来歴を確認 また、今日の清須がそうした特性をどう引き受けているのかについても確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前段の「美」では、この地での営みの成果をハイライトで紹介し、郷土史理解のポイントを押さえたので、後段の「都市」では、そうした「美」を生み出す土壌となった人々の営み（都市生活）について扱う</li> <li>・ 都市発達の要因となった地勢、政治及び社会経済的な背景の整理</li> <li>・ 都市を強調することで郷村集落が取りこぼされないよう、底本にあるものは全て採録し、追記するものは、神社仏閣の価値等から判断して採録する（阿原地区の河原神社、土田地区の石清水八幡宮や春日八幡宮等）</li> <li>・ 宮重大根（底本採録済み）や土田かぼちゃといった伝統野菜についても頁を割き、食の地域資源についても言及する</li> <li>・ 今日の清須が過去に繁栄した都市基盤をどう引き受けているのかを確認する（キリンビール株式会社の立地理由やものづくり等を通じて、その特性を理解する内容を想定）</li> </ul>															

※ テキストの作成工程については、講座各回での段階的に配付で対応することとし、編集とりまとめを行ったものを年度末までに印刷製本する予定。

(2) 構成案

底本 (『清須市歴史散策 美濃路あるき』)		頁	清須学テキスト (案)		備考	頁												
1	清須市の概要[分量：6頁] ・ 清須市の現在 ・ 清須市の歴史概観 ・ 近世以降の清須市域の変遷	3 ～	1	清須市の概要 ・ 清須市の現在 ・ 清須市の歴史概観 ・ 近世以降の清須市域の変遷	・ 底本を基本とし、春日町との合併等、底本刊行以降の動向を反映する等の修正を施す	3 ～												
2	美濃路周辺ガイド[分量：34頁] ・ [美濃路ガイド略図] ・ 美濃路 ・ 美濃路を通った人・物 ・ 枇杷島橋と中島 ・ 下小田井市 ・ 屋根神様 ・ 問屋町記念館 ・ 尾張西枇杷島まつりと山車 ・ 一休庵・飴茶庵 ・ 庄内川洪水被害と新川開削 ・ 新川ポケットパーク ・ 新川橋と新川舟運 ・ 駿河塚 (今川塚) ・ 長谷院 ・ 阿波手の森と甚目寺観音 ・ 一里塚 ・ 正覚寺 ・ おはん長右衛門 ・ 日吉神社 (山王社) ・ 清洲農場試験場 ・ 名鉄清洲線 ・ 五条川・五条橋・清洲花火 ・ 清須越 ・ 清洲宿 ・ 清須城 (歴史・城跡) ・ 清洲城天主閣 ・ 清涼寺 ・ 上島神明社 ・ 清洲城下町遺跡 ・ 朝日遺跡 ・ 貝殻山貝塚資料館 ・ 総見院 ・ 御園神明社 ・ 清洲陣屋 ・ 尾張宮重大根	7 ～	2	「美」 [20頁以内を目安に編集] ・ [略図] ・ 「美」の対象を選定し、その「鑑賞のポイント」を記載 <table border="1"> <thead> <tr> <th>地域資源</th> <th>「美」の対象</th> <th>鑑賞のポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>朝日遺跡</td> <td>赤彩土器、骨角牙製装身具、勾玉…</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>清須城・五条川</td> <td>金箔瓦、清洲花火…</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>美濃路・庄内川</td> <td>山車の装飾、町屋建築、庄内川花見…</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	地域資源	「美」の対象	鑑賞のポイント	朝日遺跡	赤彩土器、骨角牙製装身具、勾玉…	—	清須城・五条川	金箔瓦、清洲花火…	—	美濃路・庄内川	山車の装飾、町屋建築、庄内川花見…	—	・ 写真を多用し、なるべく読み手が共通のイメージを持てるようにする	7 ～
地域資源	「美」の対象	鑑賞のポイント																
朝日遺跡	赤彩土器、骨角牙製装身具、勾玉…	—																
清須城・五条川	金箔瓦、清洲花火…	—																
美濃路・庄内川	山車の装飾、町屋建築、庄内川花見…	—																
			3	「都市」 [80頁以内を目安に編集] ○ 「朝日遺跡」 [略図] ・ 朝日遺跡 (貝塚資料館) (追加) ○ 「清須城・美濃路 (清洲宿)・五条川」 [略図] ・ 正覚寺 ・ おはん長右衛門 (山王社) ・ 日吉神社 (山王社) ・ 清洲農場試験場 ・ 名鉄清洲線 ・ 五条川・五条橋・清洲花火 ・ 清須越 ・ 清洲宿 ・ 清須城 (歴史・城跡) ・ 清洲城天主閣 ・ 清涼寺 ・ 上島神明社 ・ 清洲城下町遺跡 ・ 朝日遺跡 ・ 貝殻山貝塚資料館 ・ 総見院 ・ 御園神明社 ・ 清洲陣屋 ・ 尾張宮重大根 (追加) ○ 「美濃路 (下小田井市)・庄内川」 [略図] ・ 枇杷島橋と中島 ・ 下小田井市 ・ 屋根神様 ・ 問屋町記念館 ・ 尾張西枇杷島まつりと山車 ・ 一休庵・飴茶庵 ・ 庄内川洪水被害と新川開削 ・ 新川ポケットパーク ・ 新川橋と新川舟運 ・ 駿河塚 (今川塚) ・ 長谷院 ・ 阿波手の森と甚目寺観音 (追加) ○ 現代 ・ [略図] ・ (キリンビール) ・ (追加) ○ 「郷村」 [略図] ・ (河原神社) ・ (石清水八幡宮) ・ (春日八幡宮) ・ 尾張宮重大根 ・ (土田かぼちゃ) (追加)	・ 清洲公園・清洲古城跡公園を追記すべきと史料	27 ～												
3	資料編[分量：40頁] ・ 資料 (1～56) ・ 元号・西暦対照表 ・ 参考文献 ・ 施設案内 ・ 年表 ・ 資料一覧	41 ～	4	資料編 [60頁以内を目安に編集] ・ 資料 (1～●) ・ 元号・西暦対照表 ・ 参考文献 ・ 施設案内 ・ 年表 ・ 資料一覧	・ 「清須市指定文化財」一覧を追記する	91 ～												
		全 80 頁				全 100～160 頁												

**【加筆・編集の基本的方向性】**

(1) 都市機能のポイント整理 [2頁～4頁程度] (全体で最大 20 頁)  
「○」項目の単位で、各時代・各エリアにおける、政治・経済乃至は軍事上の拠点として果たした都市機能に注目し、この地域の地形と時代環境がどう符合して、この地に都市が発達したかをテーマごとに検証

(2) 略図 [2頁程度] (全体で最大 10 頁)  
その単元で扱う地域資源 (「・」小項目単位) の分布図を記載

(3) 地域資源の詳細説明 (「・」小項目単位) (従前分 34 頁+加筆分 16 頁程度)  
従前の原稿を活かしつつ、必要な時点修正を行い、適宜項目を加筆する

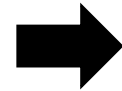
## 4 「マイスター」人材の活用方針

### (1) 求められる役割

「シビックプライドの牽引役」として、シビックプライドの醸成に資する活動を自発的に展開していただくことが望まれる。

#### ① シビックプライドが醸成されることにより期待される波及効果

- 【 短期・中期的 】 滞在人口率の向上（交流人口の拡大）
- 【 長 期 的 】 若者層の定住化（Uターン）促進



#### ② シビックプライドが効果的に醸成できる活躍例

- 【 観光分野 】 観光で地域資源を訪れた方に対してガイドを行う
- 【 教育分野 】 校外学習で地域資源を訪れる児童生徒に対してガイドを行う
- 【 その他 】 SNS や地域での交友範囲でのクチコミ等による情報拡散

地域資源を訪れる方に対して、その魅力や価値が強い印象に残るような情報とともに伝える。

### (2) 名称の検討

- 「シビックプライドの牽引役」に対して、社会的名誉を公式に認知する仕組みの構築が、この称号の意義である
- その名称については、総合戦略において「清須学歴史マイスター（仮称）」に留めており、今後、清須学推進会議における意見聴取等を経て、正式名称を決定する必要がある。
- 名称を検討する上では、「シビックプライドの醸成に係る牽引役」という役割の軸を踏まえた上で、どのような活躍が期待される人材なのかを想定しながら、それにふさわしい称号を選定する。
- 名称は、地名の「清須」を冠して「清須\_\_\_\_\_」と称する。「\_\_\_\_\_」に該当する名称案は次のとおり。

	名 称 案	意 味	検 討	
案 1	マイスター	<p>「巨匠」「大家」「師匠」「修士」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な用例があるが、一般名詞として上記のような意味がある</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ドイツでは、手工業秩序法指定の業種で自営しようとする場合には、マイスター認定（徒弟制度の最上位を意味する「親方」に相当）を受けることが法的に義務付けられている。なお、認定にあたっては、「マイスター（親方）」のもとで徒弟として数年間修業し、マイスター（親方）試験に合格しなければならない</p> <p>対象となる職種：125種（大工、刃物、家具、ビール、仕立て、理髪、製陶等）</p> </div>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ シビックプライドの醸成の牽引役として、当該人材には幅広い活躍を期待するにあたり、観光案内に特化した役割を求めるわけではなく、個性やライフスタイルに応じた様々な役割の発揮（SHSでの情報発信や教職の方がご自身の仕事を通じた貢献等）が想定できることから、他の名称に比べて包括的な意味を持っている点で適している</li> </ul>
案 2	コンシェルジュ	<p>「総合案内人」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホテルの職域の一つで、宿泊客の様々な相談や要望に応える「よろず承り係」として、あらゆる知識や人脈を駆使して要望に応える</li> <li>・ 近年、ホテル業界以外のサービス業において、ワンストップ・サービスが、目指されるようになってきた。そのため、顧客の相談に対して豊富な知識に基づいて、適切な提案をするような「総合案内サービス」やその職域に対して、この名称を用いる例が増えている</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ シビックプライドの醸成を牽引するにあたり、幅広い知識を駆使して、案内できる人材という意味では、施策の方向性に沿った表現であると思われるが、当該人材が他の地方公共団体での類似事業のように「観光案内」に特化した存在だと認識されるケースも考えられ、「マイスター」の方が適している</li> </ul>
案 3	プロフェッサー	<p>「(大学等の高等教育研究機関における) 教授」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高度な知識や技術を習得した研究者・教育者という意味がある</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学術的に高度な研究を積んだことを保証するものではないため、本制度の名称としては不適切</li> </ul>

⇒ 案1「清須マイスター」を事務局案として提案する。



### (3) 人材のマッチング

- 「マイスター」認定された人材の意向と、観光や教育分野の現場から上がるニーズのマッチングを行い、活動しやすい環境づくりを行うことが必要。
- 基本的には、いずれかの既存団体に所属していただき、そこを活動母体として、「観光」や「教育」の現場要請に応じて活動することが想定される。
- 市は「マイスター」認定者に対して、「清須市ガイドボランティア」を軸として、既存団体を斡旋する。

「観光」分野での活躍方法	所属する観光ガイド団体において、活動計画を作成の上、観光現場で活躍していただく
「教育」分野での活躍方法	清須市立小中学校及び県立新川高等学校等へ「マイスター」の活用を呼びかけ、その活用を希望する学校に対して、当該校の校外活動でガイドを務める

## 5 「マイスター」認定方法（案）

### (1) 認定の仕組み

- 筆記試験による考査を実施することとし、試験名は「マイスター」の名称との統一性に鑑み「清須検定」とする。
- 多くのご当地検定では、8割程度の方が合格できるような制度設計をしている。受験者の心理的ハードルを下げ、モチベーションとなるような親しみやすい難易度設定が必要。
- ご当地検定としての親しみやすさと、マイスター人材の権威を両立させるため、試験区分を分けることとし、講座修了者全員が受験する「講座修了試験」と、希望者のみが受験する「マイスター認定試験」の2部構成とする。（同日開催：講座修了試験実施後、休憩を挟んでマイスター認定試験を実施）

	問題数	出題形式	試験時間	出典	合格基準	受験者	持込規定	特典（※）
① 講座修了試験	30問程度	選択肢式	60分	講座内容・テキストから8割	6割正解	講座受講者全員	テキスト・ノート等の持込可	修了証
② マイスター認定試験	15問	選択肢式・記述式	30分	指定資料なし	7割正解	受講者のうち、希望者のみ	テキスト・ノート等の持込不可	認定証・ピンバッジ

※ 修了証・認定証は清須学推進会議名で発行する。また、ピンバッジは清須学の標章をデザインした成果物を支援事業者において作製する。

#### 【参考】検定問題作成に係る支援事業者への委託内容

- ・ 検定を毎年1回開催することを想定し、4回分の検定問題を作成（採点に用いる解答集の作成を含む。）
- ・ 受験対象者は、清須学講座の受講者を想定（受験料は無料）
- ・ 類似検定の調査等、必要に応じて関連調査を実施
- ・ 検定問題案についてテキスト執筆者等による監修依頼と意向反映



#### 【業務の進め方（案）】

- ・ 支援事業者が、検定問題(案)を作成する（テキスト執筆者等に依頼し、取りまとめる想定）
- ・ 委託事業者からテキスト執筆者による監修の依頼し、内容チェックを行う
- ・ 市の判断で試験問題の最終稿を決定
- ・ 3月上旬頃に想定している試験については、市で実施し、その採点結果を基に、「マイスター」認定者案を推進会議に諮り、正式に決定

### (2) その他

- 「マイスター」認定後のキャリアアップを可視化する仕組みとして、活動実績に応じたポイントの獲得により、称号がランクアップする仕組みを構築することも検討する必要がある。

【例】「マイスター」⇒「シニア(※)マイスター」（どのような活動実績に対して、ポイントを付与するかは、十分な検討が必要。）

※「シニア」の意味：上級者。年長者。

## 6 清須学開講記念シンポジウムの開催目的

- 総合戦略において、清須学講座の開講や「マイスター」認定の仕組みづくり（清須学推進事業）は、「地域資源とシビックプライドを核として活力あるまちをつくる」ための取り組みとして、重要な位置を与えられている。
- そこで、清須学の重要な構成要素となる本市の地域資源（朝日遺跡、清洲城、美濃路等）が持つ全国的なスケールを周知し、本事業の取り組みを始める上での機運醸成を図る。

期待する効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本市の地域資源が有する価値の周知を通じたシビックプライドの醸成</li> <li>・清須学講座の受講希望者の増加（受講の動機づくり）</li> </ul>
ターゲット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内外のシニア層</li> <li>・市内外の歴史に関心を持っている層</li> </ul>

## 7 シンポジウム開催概要（案）

### (1) 概要

会場	春日公民館（大ホール） 収容規模：600人
日程	9月17日（土）午後1時30分～（清須学講座の受講申し込み期間中に開催） ※ 午後1時に開場予定
周知方法	広報紙（折込チラシ）、ホームページ、市内外の観光施設等でのチラシ展開、その他（金融機関への周知協力依頼等）
当日の進行	① 主催者あいさつ（清須市長） ② 基調講演：[ 50分 ]（小和田哲男先生） ③ パネルディスカッション [ 55分 ]

### (2) 基調講演

テーマ（案）	<b>「物語としての清須城 ～時代を駆け抜けた城～」</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・清須城が「中世の武家屋敷」から「近世城郭」へと時代とともに成長していく様は、武士（あるいは武士を支配層とする社会）のあり様の変化を反映している。清須城がこの国の歴史をどのように見つめた城だったのかについて、当時の全国的な世相や時代の潮流を踏まえながら、説き明かしていただく</li> <li>・そこに全国に名を馳せた戦国武将達の活躍で彩りを添えていただき、“清須城の物語”としてご講演いただくことを想定</li> <li>・可能な範囲で朝日遺跡等にも触れていただく</li> </ul>
講演者	<b>小和田 哲男 先生</b> （静岡大学名誉教授） [ 昭和19年生まれ（72歳） ] ※略歴、著作は公式HPを参照 戦国時代史研究の第一人者として、テレビ番組での解説や大河ドラマの時代考証ではおなじみの歴史学者。分かりやすい解説とソフトな語り口が人気。一般向けの著作（監修含む）が多く、戦国時代のみならず、日本史全般を扱う内容も多い。 <b>【略歴】</b> 昭和47年 早稲田大学大学院文学研究科博士課程修了 平成22年3月 静岡大学（教育学部教授）を定年退職 平成23年4月 現職 <b>【専門】</b> 日本中世史（特に戦国時代史） <b>【主な著作（監修含む）】</b> ※専門分野のみならず、日本史全般を扱う著作も多い <ul style="list-style-type: none"> <li>・『東海の戦国史』（ミネルヴァ書房、2016年）</li> <li>・『名城と合戦の日本史』（新潮文庫、2016年）</li> <li>・『日本人は歴史から何を学ぶべきか』（三笠書房、1999年）</li> <li>・『戦国の城』（学研新書、2007年）</li> <li>・『悪人がつくった日本の歴史』（中経の文庫、2009年）</li> <li>・『詳細図説 信長記』、『詳細図説 秀吉記』、『詳細図説 家康記』（新人物往来社、2010年）</li> <li>・『誰も書かなかった 清須会議の謎』（中経の文庫、2013年）</li> </ul>



(3) パネルディスカッション

テーマ	郷土の歴史と地域の誇り						
取り回しテーマ	1巡目：基調講演を受けて、清須城（清洲城）について思うこと 2巡目：地域資源の魅力を市民が共有することの意義						
役割	コーディネーター		アドバイザー		パネリスト		
氏名 (肩書き)	内田 俊宏 氏 (中京大学経済学部客員教授)		小和田 哲男 氏 (静岡大学名誉教授、基調講演者)		山田 功 氏 (中日信用金庫理事長)	加藤 富久 氏 (郷土史家)	原田 幹 氏 (愛知県教育委員会文化財保護室主査)
紹介	テレビやラジオの番組で幅広く活躍中のエコノミスト 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議座長		—		清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議等で清須学を提唱	元愛知県立高等学校教諭で、清須市文化財保護審査会委員（副委員長）を務める	学芸員 著書『東西弥生文化の結節点・朝日遺跡』ほか

8 年間スケジュール（案）

作業工程	平成28年												平成29年											
	8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
<b>(1) 清須学講座の開講</b>																								
①講座・テキスト構成の企画・立案		→																						
②講座講師選定・依頼																								
③テキストの作製																								
④講座の開催																								
<b>(2) 「マイスター」認定制度の構築</b>																								
①制度の方向性		→																						
②詳細な制度設計																								
③検定問題の作成																								
④認定証・標章の作製																								
⑤検定試験の実施																								
<b>(3) シンポジウムの開催</b>																								

※ 清須学講座の受講募集は、シンポジウム（9/17）以降を予定。